

## 1. 序論

この手引きの目的は、卒業研究発表会概要集原稿（以下、予稿）の書き方の一例を示し、冊子として書式を統一することにあります。予稿作成時は、フォントや各寸法などこの手引きに忠実に従ってください。ただし中間報告書作成時は、それほど神経質になる必要はありません。

なお行数の目安として、上限を 48 行、下限を 44 行とします。**この文書は下限のサンプルなので、これ以上行間をあけることを禁止します。**

概要集は、発表者が作成した予稿をそのままオフセット印刷によって作成します。予稿の書き方が不適當であると刷り上がりが不鮮明になります。予稿の作成に当たっては、この点を考慮し“きれい”に仕上げてください。**特に、締め切りギリギリに提出する学生ほど自分勝手な体裁で出してくる傾向があります。この手引きをよく読んで、注意を守ってください。**

## 2. 研究内容

（この「研究内容」というタイトルは、各自の研究内容に沿ったタイトルに変更して下さい。）

A4 判縦の用紙に 2 段組で以下の寸法に従ってください。

上端マージン 24mm

下端マージン 25mm

左端マージン 15mm

右端マージン 15mm

左右の段間 8mm

この手引きの pdf ファイルを当方のプリンタで出力すると上記の寸法になっておりますが、お手元のプリンタでは若干寸法が異なるかも知れません。お手元のプリンタで上記の寸法になるように予稿を作成してください。

第一行目には、講演番号とタイトルを記入してください。タイトルは、文章の左端から 36mm の位置から始め、講演番号は、文章の左端とタイトルの頭の中間に来るように、この手引きのタイトルと同じくらいの大きさの文字で記入してください。**講演番号については後日指教員から通知されますが、中間報告の提出時はサンプルのままで構いません。**

タイトルが 2 行にまたがる場合は、頭をそろえてください。タイトルの次の行に一行あけて、研究室名、氏名を記入します。右端に一文字空白をあけて、右寄せをしてください。さらに一行あけて、本文を 2 段組で書き始めます。

**タイトルは予稿の一番目立つ部分ですので、大きさと位置の統一をお願い致します。**

## 3. 結果・考察

予稿の作成には、Word、一太郎、 $\text{\LaTeX}$  等、どのようなソフトを使用されても問題ありませんが、この手引きに準じた仕上がりになるよう、フォント、フォントサイズ、マージンを設定してください。手書きの予稿は提出禁止です。

### 3.1 図・表の挿入と文献引用について

図や表には必ずキャプション（題名と参照番号）を添えて下さい。

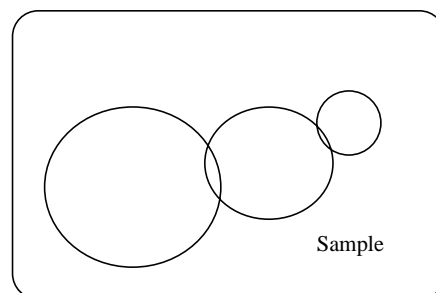


図 1 図の例

キャプションは図の場合は下、表の場合は上に入れます。図や表を入れた場合、必ず参照番号を使った文章を本文に入れます。例：図 1 は図の、表 1 は表のサンプルである。

文献引用には、必ず `\cite` を使用してください。例：表 1 に、文献 3) で使用された計算機の仕様を示す。

表 1 表の例

OS	Linux 4.4.92(64bit)
CPU	Intel Core i7-7700@3.60GHz
メモリ	62.8GByte

## 4. 結論

毎年同様の手引きが配布されていますが、その中に書かれている注意に従わない予稿を多数目にします。必ずこの手引きの指示に従って作成し、指導教員の許可を得てから提出してください。

## 参考文献

- 1) 木下是雄：理科系の作文技術，中公新書 624 (1981).
- 2) 末武国弘：科学論文をどう書くか，講談社ブルーバックス (1981).

3) 第 1 著者, 第 2 著者 : 論文名 (論文の場合のかき方), 論文誌名, 巻番号, 号番号, pp. 31–38 (2018).